

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員の  
ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 肇

クリサンセマムの栽培

今回は花壇苗のクリサンセマムの栽培について紹介します。

経営上の特性

この花は比較的寒さに強く、冬季にもよく開花するため、冬花壇に多く使用されます。

クリサンセマムには白色のパルドーサムと、黄色のマルチコーレの2系統があり、寒さには白色のパルドーサムという系統が強いといわれています。庄原地域ではどちらの系統も無加温でのハウス栽培が可能です。



作型

10月に播種（種まき）し、約4〜5週間後の11月に植え替えを行います。その後、3〜4月に出荷するのが庄原では最適です。

播種

市販の無病の用土を用いて、育苗箱への<sup>※1</sup>条播きか、<sup>※2</sup>セルトレイへ播種します。

播種後は種子が隠れる程度に薄く土をかぶせます。

ポット上げと管理

播種してから4〜5週間後、本葉が4枚になったら、3号ポリポットに植え替えます。

用土は有機質を含む土を使用し、pHは6程度に調整しておきます。肥料は1立法メートルあたり、化成肥料1キログラム程度をよく混ぜて使用します。

また定植してから、2週間後と5週間後に<sup>※3</sup>矮化剤を処理すると、よりコンパクトで高品質な花になります。

出荷

クリサンセマムの花が、2〜3輪程開花したら、トレイに詰めて出荷します。

問い合わせ

農業振興課農業振興係

0824・73・1131

※1 条播き…土に直線の溝を付け、その溝に沿って種を播くこと。

※2 セルトレイ…ハチの巣状の育苗容器。

※3 矮化…成長抑制剤などを使って、植物を人為的に小さく育てること。

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新なる魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。



地域おこし協力隊員として  
本市に移住した  
古川 麗さん

比和町の自然に魅せられ、地域おこし協力隊員になった古川さんに、本市のファンになったきっかけや、これからやってみたいことなどを聞きました。

自然や動物が大好き

東京で生まれ育った私は、頻繁にキャンプに行く家族だったため、幼い頃から自然や動物が大好きで、大学も野生動物のことを勉強するための学部に進みました。

大学卒業後は、自然が豊かなところで働きたいと思い、比和町の吾妻山ロッジを管理している会社で働いていましたが、7カ月後に異動となり、一度は庄原市を離れることになりました。

地域おこし協力隊員に応募

比和町で働いた時間はわずかでした

が、その間に吾妻山などの自然にすっかり魅せられてしまい、何とか庄原市に帰れる方法がないかと模索していました。

そんな時にインターネットで検索してヒットしたのが「庄原市地域おこし協力隊員」の募集です。「ジビエや鳥獣被害対策にチャレンジする隊員を募集！」という記事を見て、動物が大好きで、野生動物の研究をしてきた私にはぴったりの職業だと思い、すぐに応募しました。その後無事に採用が決まり、また庄原市に戻って働くことができました。本当にうれしく思っています。

庄原市の暮らし

庄原市に来てからは、木々や土の匂いを感じる事ができたり、きれいな星空を見ることができたりと、日々の暮らしを満喫しています。都会にはない澄んだ空気を感じられる中国山地の雰囲気、私の肌合っているように思います。

今の目標は、比婆山と吾妻山の間にある大膳原でキャンプをすることと、狩猟免許を取得することです。

問い合わせ

自治定住課定住推進係

0824・73・1257